

香社研だより 丸亀

香社研テーマ

「教科横断的な視点に立つ2タイプの社会科授業」
～概念づくりの過程で「学習や豊かな人生」の基盤となる資質・能力を学習評価で育てる～

丸亀社研テーマ

自分事として社会参画していくことができる児童を育む未来志向型社会科学習の展開

1 1月定例研 丸亀支部

日時：令和3年11月27日 丸亀市立飯山南小学校

○実践提案 提案者：丸亀市立郡家小学校 黒崎 侑希 先生

単元名：第5学年 どうする、日本の食料生産！！

1 主張点

地域教材（さぬきの夢2009）を教材とすることで食料生産について自分事として考え、社会参画につながる意識を高めることができる。

2 実践提案

(1) 単元の流れについて

本単元は、これまでの食料生産の学習のまとめとして位置づけられている。国内の食料の生産量を増やし、食料を安定して確保するためには、国内の食料生産に関わる人たちの姿を抜きにしては考えられないため、地元の「さぬきの夢2009」を取り上げ、食料生産の課題を解決するために奮闘する人物や機関を取り上げ、具体的な事例をもとに学ばせていく。導入では、日本の食料自給率が低いことを身近な天ぷらうどんをもとにして捉えさせた。食料自給率が年々低下している



ことから、「食料自給率がこのまま0%になってもいいか？」【帽子の色で分かれる対立場面のように】と対立場面を設定し、学習問題「どうする、日本の食料生産！！」を考えた。そして、「さぬきの夢2009」について学習し、生産者や加工会社、販売者、JAなど食料生産に関わる人たちの姿を通して、地元香川県の食料生産を盛り上げていきたいという思いを感じ取らせた。その後、国内にも同じように取り組む人たちがいないか調べ、単元の終末では、自分たちにできることとして「地域の生産者を応援したい！」とポスター制作をし、地元の店舗に掲示してもらった。

(2) 本時の学習

本時は自分事として捉えさせるために導入の資料提示を工夫した。「さぬきの夢2009」の生産者である松浦さんが、香川県に約500店舗あるうどん屋の中で、「さぬきの夢こだわり店〈100%さぬきの夢使用〉」が8店舗しかないなど広く普及していないにも関わらず、なぜ「さぬきの夢2009」を作り続けているのかを学習問題として、資料をもとに考えた。生産者や加工会社、販売者、JAそれぞれの資料を読み取り、生産者を支える仕組みが作られていることを学んだ。



【導入での資料提示のようす】

本時の終末では、生産者である松浦さんの「さぬきの夢2009」に対する熱い思いをビデオレターで視聴し、自分たちも何かできることがないかなという意欲を喚起させた。本時では、それぞれの立場の人たちが、地元の小麦「さぬきの夢2009」の生産や消費を増やしていくために、努力したり、協力したりする姿を学ぶことができた。

(3) 成果と課題・検討事項

○単元の導入で対立場面を設定することで、課題意識をもって単元の学習に臨むことができた。

○地域教材を活用することで、食料生産の現状や課題をより身近なこととして捉えさせることができた。

△単元の学習問題が、導入時の子どもたちの意識とはずれていた。学習問題が「どうする、日本の食料生産!!」と焦点化されていなかったのも、もっと絞った学習問題にする必要がある。

△農家の仕事(3年生)の単元とのさび分けが難しい。生産者の思いを取り上げすぎたことで、5年生の学習である「食料生産」の枠からはみ出してしまったところがある。「食料生産」としての学習の在り方を探っていく必要がある。

3 討議内容

・成果と課題について、「どうする」に対する予想はどうなったのか?

→「どうする」としたことの意味合いが広がりすぎたが、生産者の取組やその危機感は全体で共有できた。

・学習問題作りで対立場面を設定していたが、「どれだけ自分事として捉えられていたかについて」「どうする」の後で聞くのではなく、生産者の人が努力しているということを先に知らせておいて、学習問題を立ててもよかったのではないか。

・500店舗の内8店舗が「さぬきの夢こだわり店」という事実を取り上げていたが、100%か0%でなく、50%でも使おうとする(さぬきの夢2009+オーストラリア産小麦)応援店側の取り扱いも必要ではないか。

・小麦の自給率が14%と低いので、「さぬきの夢2009」を取り扱う価値はある。生産者の松浦さんを通して単元の中で子どもに捉えさせたいことは?

→安心安全・消費を増やしたい・各機関の相互連携、またそうしたことから見える今後の希望について捉えさせたい。

4 ご指導 香川県教育センター 指導主事 宮脇 隆文 先生

・学習問題作りについて

単元の学習問題作りは、対立場面を設定することで自分事として捉えさせることにつながった。また、本時も県内500店舗の内「さぬきの夢こだわり店」はたった8店舗しかないというギャップから学習問題をつくるのが良かった。

・指導要領と児童の実態をもとに授業づくりを行ったり、生産者だけでなく様々な立場の人たちの視点から考えたりする点が良かった。

・単元の構造化

丸中研でも数年前に「社会参画」をテーマに実践をしていた。単元のゴールに児童にどのような認識をもたせたいのかを明確にし、1時間1時間の授業をデザインしていく必要がある。どの時間に意思決定や価値判断を行うのか、知識や技能を身に付けさせるのかまで考えていく。

・発問やICTの活用について

思考を深めていくときに効果的なのが「なぜ発問(それは何?つまりどういうこと?など)」。子どもたちとのかけ合いをする中で、自分事につながっていく。

香社研だより

坂出・綾歌社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 寺嶋 俊秀
発行日 令和3年11月6日

香社研テーマ

教科等横断的な視点に立つ2タイプの社会科授業
～概念づくりの過程で「学習や豊かな人生」の基盤となる資質・能力を学習評価で育てる～

坂綾社研テーマ

未来を拓く子どもの育成につながる質の高い社会科学学習の創造

1 1月定例研 日時 令和3年11月6日 場所 坂出市立府中小学校
実践提案 第3学年 「市のようす」
提案者 坂出市立府中小学校 教諭 岡野 彩香先生

1 坂綾社研の主張点

質の高い社会科学学習の創造のため、①単元構成の工夫②学習の個性化と指導の個別化③学びの協働化④ICTの効果的な活用を視点として、社会的な見方、考え方を働かせて、児童が調べたり、対話したりしながら学習活動に取り組むことが重要であると考え研究に取り組んだ。

2 本単元での取組

(1) 生活経験の想起の工夫

市内の主要な施設を写真提示することで、行ったことがある等の生活経験を想起させて考えることで駅の周辺にあることが理解できた。

(2) 土地の様子イメージ化

副読本「ふるさと坂出」を用いて土地利用図と航空写真を比較しながら考え、土地、建物、交通のイメージ化が図られるようにした。さらに、ウェブ上の3D機能を使ったり、立体写真を提示したりして高低差を意識できるようにした。児童からは「ここは高い所だ」「この辺は低くて平だ」等の話し合いが行われた。

(3) 気付きをもとにした思考の深まり

個々の気付きから市の様子を4つの地域に分け、土地、建物、交通の観点から気付いたことをまとめ、児童は地図や模型から、緑が多い地域は山で果樹園が広がっていることに気付いた。次に、ペア学習や全体交流により、市の中心部は土地が平らで住宅や駅があることを友達から学んでいった。交流で考えた内容をガイドブックに付け加えて、市の特色ある地域を理解していった。

(4) ICTの効果的な活用

タブレットを使って教員から資料を児童に送ったり、児童の土地利用図を基に全体で話し合ったりして個別最適化のタブレットの活用と全体での話し合い活動を効果的に行った。

(5) 成果と課題

- ・航空写真や地図の活用によりイメージ化して、土地、建物、交通の関連を考えられた。ガイドマップ作りをすることで個々の学習や情報交換を行い市全体の特色を掴むことができた。
- ・全体の共有化として、WEB上にある地図検索機能等を活用することで疑似体験を児童に味わわせ、理解が高まった。
- ・土地、建物、交通の観点到時間的な変わり方を加えることで、社会的な見方、考え方が深まってい

ったのではないかな。

- ・対面での対話も活用しながら、タブレットの思考ツールの活用や効果的な話し合いの仕方を考えていきたい。

3 討議内容

- ・校区外のことを知らない児童が多いという実態に関しては、市内のことをよく知っている児童が多い学校もあり、地域により実態は異なる。社会科導入期の3年なので、実態に合わせた学習が最適である。

- ・駅が近いから住宅が多いのか、その逆なのか。各地域によって異なる。香川県の場合、電車よりも、自動車での行き来が多い。

- ・副読本で特色ある地域を捉えさせた上で、土地・建物・交通の3観点をそれぞれおさえていく必要があった。

- ・単元構成の工夫として、特に従来と変更したところは何か。学習の個性化では、自分が調べたい地域を決め、それぞれ調べた後に交流をするとより深めることができたのではないかな。

- ・現行の教科書（東京書籍使用地域）では、市の特色ある地域ごとの学習でなく、土地の使われ方・交通・古い建物など、観点別の配列になっている。今回の提案では、従来の特色ある地域ごとになっているが、その意図は。

- ・各時間、児童が同じように特色ある地域の学習を進めているが、個々の児童が自分の調べたいテーマ（地域）を調べていく学習方法もあると思う。

- ・副読本と教科書とのずれをどのようにうめながら授業をしていくべきなのか悩んだ様子がわかる。単元を通して、視点ごとに全体で一つの白地図にまとめていくことが、ガイドマップ作りになるのではないかな。

- ・学習指導要領をしっかりと読み込みたい。「市の様子の全体」を捉えることが、農家・消防・警察等の第3学年の学習内容に大きくつながっていく。特色を見出すことが大切な学習。坂・綾の4つの視点は非常に大切。①焦点化すること②社会につながろうとする態度の2点が重要な単元であった。

4 ご指導 琴平町立琴平小学校教頭 渡部 岳史先生

- ・低学年社会科では、2年から3年を繋ぐと共に、1年からの社会科の繋がりを意識して実践していく。①市の様子をおおまかに理解する。②場所による違いを考える「比較」と「関連付け」の視点。香川県は、4社の教科書を採択している。副読本と教科書がリンクしているが、坂・綾が主に採択している教育出版では、行政の視点を通して特色ある地域をまとめている。東京書籍、日本文教出版では若干の視点のずれがある。しかし、教科書分析に基づいた単元構成がされていた。

- ・地域を調べた上で、白地図にまとめる→ガイドマップ→短い文章にまとめる活動でもよかった。

- ・個に応じた学習活動は、発達段階に応じた課題提供が必要。児童の実態から、スモールステップで思考を深めていく支援が非常に有効であった。生活経験と、目の前の教材を繋ぐ支援が非常に良かった。

- ・気付いた特色から、その理由・原因を考える活動までは必要とされていないが、児童と共に丁寧に確認・深化させていく実践が良かった。しかし単元の中で全てを網羅するのは難しいため、学年を通して押さえたい内容を意識して指導していくことが必要。

- ・ガイドマップ作りは効果的だが、誰をガイドするためのマップなのか、目的意識は必要。

- ・市町合併で、意識の「市町」と行政区分の「市町」が乖離している。例えば、近隣の小学校と交流という実践方法もあるのではないかな。

- ・今後に向けては、3年社会を低学年から繋げる。3年社会の教材研究を、市全体で共有できないか。（足で稼ぐ教材研究）

香社研だより 三観

《香社研テーマ》

教科等横断的な視点に立つ2タイプの社会科授業

～概念づくりの過程で「学習や豊かな人生」の基盤となる資質・能力を学習評価で育てる～

《三観社研テーマ》

子どもが自ら問いを追究し、納得へと向かう社会科学習の展開
ー子どもの心情を起点とした学習活動を通してー

11月定例会 三観ブロック集会

日時 令和3年 11月27日（土） 於：丸亀市立飯山南小学校

実践提案 第5学年 「天皇中心の国づくり」

～受けつがれる！よりよい新しい国づくり～

授業者 観音寺市立観音寺小学校 教諭 都築 春信

提案者 観音寺市立常磐小学校 教諭 白川 康太

1 提案の主張点

（1）見通しをもち納得へと向かうための大仏造営を主軸とした単元構成

本単元では導入で大仏造営を取り上げ、第1次では、単元を貫く問いを「どうして大きな大仏をつくることができたのだろう」と設定した。すると、児童はその問いを解決するための予想を、既習の古墳造営の学びとつなげて、「人々」「権力（仕組み）」「物資（お金）」「技術」「仏教」があったからできたのではないかと考えた。第2次では、これらをひとつずつ解決していった。その学びを毎時間、単元を貫く問いに戻り、自分たちの考えた要素を解決できたか振り返りながら学習を進めていくことで、次に解決したい要素について見通しをもって学習に取り組むことができた。しかし、学習を進めていくと「人々」の要素が大仏造営とはつながりにくい。そのため、第3次では、「なぜ、どうして人々が集まったのか気になる」と見通しをもって解決していった。

このように、大仏の存在を単元の導入で扱うことにより、児童は、単元で何を学ぶと単元を貫く問いを解決するのか、見通しを立てて学習を進めることができた。さらに、毎時間で学んだ内容を単元の学習問題と関連付け、これから学習する必要のあるものを確認しながら、単元の問いを解決していった。

（2）天皇（官）と民衆（民）の想いを結ぶ存在としての行基

奈良時代、仏教は貴族のものであって、民衆はその教えに触れることはほとんどなかった。当時、僧は寺院に住むことが義務づけられており、民間布教は禁止されていた。では、なぜ多くの民衆が仏の力を信じて大仏づくりに協力することになったのだろうか。このころの「民」の状況を考えると、租庸調

という税に苦しみ、その上飢饉や疫病、反乱などによって息も絶え絶えの状態だった。民衆は「苦しい生活から救われたい」と願っていたことだろう。だからこそ民衆に仏の教えを説き、人々のくらしがよくなるようにと一緒になって橋や池を作った行基は、民衆から菩薩と呼ばれ大きな信頼を集めていた。そのような折、聖武天皇は、仏の力で平和な世にしようと大仏造立の詔を発し、民意での建立を呼びかけたがうまくいかない。そこで、聖武天皇は、行基の社会事業を展開する技術力と動員力、民衆への影響力を利用して大仏づくりを進めた。結果は大成功となり、行基の登用後は、農民も率先して工事に加わるようになったと言われている。つまり、行基によって「官」と「民」両者が結ばれ、国家プロジェクトである大仏造営を成し遂げることができたといえるだろう。行基の人びとを助けたいという強い思いが、民衆を動かし、朝廷を動かし、ついには大仏造営という国家プロジェクトを成しとげることができたといえる。本実践では、そんな官と民とを結ぶ存在として行基を扱った。

2 討議内容

(1) 討議で出された主な意見

視点1 単元構成について

○コンプリーマップを作成しながら単元を通していくのは見通しをもつことができてよい。

●コンプリーマップが完成したら天皇中心の国になったと言ってよいのか。

視点2 教材（行基）について

●当時260万人集まったことはとてもすごいこと。しかし、現代の感覚の子どもたちにはそのすごさが伝わりにくいので、工夫が必要ではないか。

●子どもたちはどれだけ民衆の立場に立って考えることができていたのか。行基の呼びかけによって民衆は協力したのか疑問。民の立場なら仏教にすがりたいと考えたのではないかと思う。本当に自分なら行くのかをもっと話し合えばよかった。

(2) ご指導（藤本 博文教頭先生 三豊市立詫間小学校）

① 社会科学習で身に付ける力

・夢の実現に向けて、課題がある。課題に対してどんな計画を立てればよいか、いつ、どんなことをすればよいかを考え、実行する。例えば、持続可能なよりよい世界という夢を立てる。17のゴール・169のターゲットのために、一人ひとりが計画を立て実行する。このような考え方を社会科で身に付けさせなければならない。

② 単元について

・一つずつ課題を解決させるこの単元構成によって、大仏造営が実現できたと分かりやすい。
・このような単元構成を繰り返し行っていくと更によい。

③ 教材（行基）について

・260万人は行基の力で集まったのかは考えるべき。
・ゆかりのある場所を提示したのは、よかったと思う。自分の地元にもゆかりの地があるのでそこも提示すると、子どもたちは身近に感じられたのではないか。

香社研だより

さ・東社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 寺嶋 俊秀
発行日 令和3年11月6日

<香社研テーマ>

教科等横断的な視点に立つ2タイプの社会科授業

～社会的事象の見方・考え方、生き方を働かせ資質・能力を育てる～

<さ・東社研テーマ>

「社会的事象の見方・考え方を働かせ資質・能力を育てる社会科学習」

— 子どもが問いをつくり・深め・広げる単元構成の工夫 —

11月定例会 さ・東支部

日時：令和3年11月6日 坂出市立府中小学校

○実践提案 提案者：東かがわ市立引田小中学校 教頭 白澤 一修 先生

小中社会科の系統的な接続と指導 —小中一貫教育を通して—

1 実践提案

(1) はじめに

東かがわ市立引田小学校の学校教育目標は、「豊かに生き抜く力を身に付ける児童生徒の育成」サブテーマは「～小中一貫教育を生かす学校づくり～」である。令和2年度から小中一貫教育校として再スタートした。東かがわ市では令和4年度から全ての小中学校が、小中一貫教育校となる。

これまでの小学校の社会科を研究してきた私が中学社会科に関わる経験を基に、小中社会科学習の系統的な指導の取組について報告した。

(2) 研究の概要

① 小中の接続を意識した指導の必要性

学習指導、生徒指導の両面においても、校種間の円滑な接続を保証していくことは、児童生徒の学びに大きな効果がある。しかし、「学級担任制」中心の小学校と「教科担任制」である中学校では、その特性から、なかなか円滑な接続ができない実態がある。その中で、小学校教諭が、授業の際に中学校の指導を見据え、小中の系統的な接続を意識しながら指導にあたることができたなら、社会科学習の深まりや主体性の育成につながると考えた。学習指導要領では、児童生徒が学習や人生において、社会事象の具体的な「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ教師の専門性が発揮されることと書かれている。

(3) 具体的な事例

6年生の社会科と中学歴史分野

ここでは資料として「6年 大和朝廷と国土の統一」「中学歴史 鉄から見えるヤマト王権」を用いる。

①大和朝廷と国土の統一

2つの教科書を比べると、大きな違いは小学校の教科書には無い、**鉄**についての記述である。

古墳から出土した鉄の延べ板や兜・鎧

この鉄についても初めて知った。ヤマト王権は、鉄を作る技術が無かった日本において、朝鮮半島から鉄の輸入や製作の技術を得ていた。これを、各地の豪族たちに提供し、服従と貢物を要求していた。鉄の存在を6年生の児童が知っておれば、大和朝廷が力をもつ経済をより深く理解できるのでは

ないかと考えた。

朝鮮半島との関係も中学校で登場する。朝鮮半島との関わりを認識させることが大切である。そこで、6年の担任にこの単元を指導する際に鉄が国づくりに大きな影響を及ぼしていたことを助言した。小中合同の現職教育で研究授業として提案させた。

小学6年生の「大和朝廷と国土の統一」に、中学歴分野で出てくる鉄の影響について取り入れる。調べ学習の際に、鉄についての知識が得られるように内容に配慮することが大切である。児童は各自がPCを使い、調べ学習を行う。参観した教員はビデオやデジタルカメラで記録し、タブレットでは他の教室で参観している中学校の教員へ遠隔中継を行った。

②合同現職教育での提案授業では

6年生担任は現職教育主任である。日頃から授業づくりについて研究もしている。小中一貫教育の下での社会科授業づくりで、共同研究を行った。担任に中学歴史分野の教科書を見せると、小中でのつながりを強く感じて、今回の提案授業に取り組んだ。

6年生の歴史学習では前方後円墳の分布や「ワカタケル大王」の剣が熊本県と埼玉県の古墳から出土したことから大和朝廷の広がりについて学習している。

そこで、児童が主体的に学習するため「大和朝廷はどのようにして勢力を広げることができたのか？」という新たな課題をもたせることができたなら、調べ学習を通して、鉄の影響について知ることができたであろう。今回は、時間の都合上、教師から鉄についての情報を提示した形になったが、それまで鉄を作る技術のなかった大和朝廷と朝鮮半島の力関係も、知るきっかけになったと思われる。そこに、渡来人による文化や技術の伝来が重なれば、大陸との関わりも大いにつながる場面であった。

合同討議会では、小中の教員がグループになって話し合った。討議に参加していた小学校の教員は、社会科学習を指導した経験がある。今回の社会科授業でも討議を深めることができる。中学校教員の場合は、各教科の専門性が高く、社会科以外の教員は、自分の担当教科の特有の資質・能力と違いがあるので、内容よりは学習方法を中心に意見を出していくことが有効であると感じた。

そこで、教科の特性の内容よりどのように学習に取り組むかを討議することが重要であると感じた。

2 研究の成果と課題

(1) 成 果

- ・社会科の見方・考え方は小中で相互に関わりが強い。そのために、お互いにおさえなければならない基礎・基本を明確にする必要性が大切であると共通理解できた。
- ・本校のような同じ敷地内にある小中一貫教育校ならではの利点を生かし、互いに大切にしている観点や内容について共有しやすい。

(2) 課 題

- ・今回は社会科という1つの教科をクローズアップした。他教科を専門とする中学校教員もさらに関わりを深められる研修方法を工夫しなければならない。
- ・小中の学習内容を比較しながら他教科でも、系統性を整理していく必要がある。

3 指導 高松市総合教育センター 研修係長 河田 祥司 先生

- ・2年ぶりのリアル研修会。顔ぶれも変わっている。
- ・白澤先生の研修の在り方の工夫が伝わってきた。授業動画やQRコードを利用した略地図の演習など、新たな取り組みも学びになる。
- ・特に、小中一貫の視点は、これまでの香社研での提案にはない新たな視点である。
- ・学習指導要領のつながりを意識して改訂されている。

①3つの資質・能力の柱に整理 ②能力に関する目標のつながり ③中学校の態度に関する目標